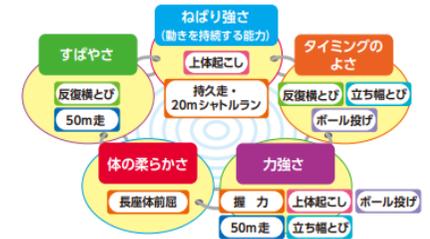


令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告(対象：市内24小学校5年生1257人・市内11中学校2年生994人)

〔R5年度課題〕
 〔小学校〕下半身の力強さ・タイミングの良さ、体育以外の総運動時間
 〔中学校〕下半身の柔らかさ・粘り強さ・すばやさ・力強さ、体育以外の総運動時間

- 〔R6年度取組み〕
- ・ 楽しく、主体的に運動できる授業をめざした授業改善
 - ・ 体育授業以外での運動機会の設定
 - ・ 児童生徒実態の把握、取組みの検討
- … 専門家による改善指導、実践交流、スポーツ庁資料活用
 - … スキップロープチャレンジ
 - … 体力向上支援委員会、府体力向上事業活用

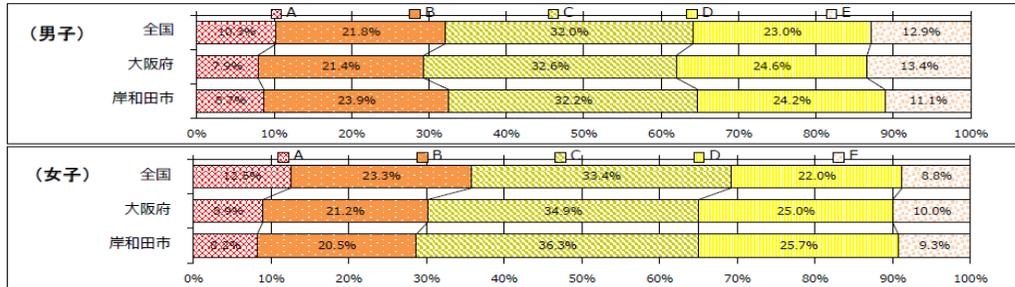


【小学校】全国及び大阪府との比較

〈体力合計点の平均値及び岸和田市経年変化〉 各種目10点満点とし、8種目を合計した得点を調査実施した児童数で除した数値

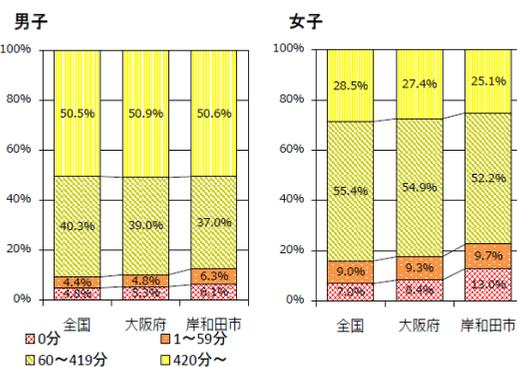


〈総合評価〉 体力合計点を5段階で評価。A:65点以上、B:58-64点、C:50-57点、D:42-49点、E:41点以下

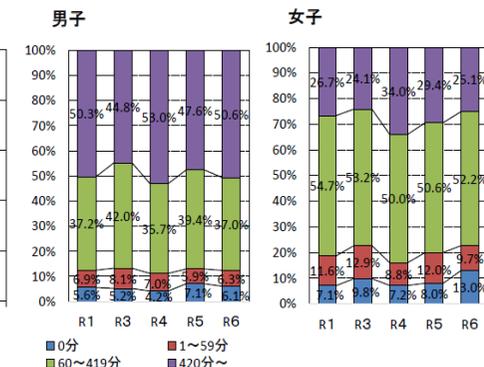


○ 男子は、全国と比較して、上位層(A, B)が多く、下位層(D, E)が少ない。
 ○ 女子は、全国と比較して、上位層(A, B)が少なく、下位層(D, E)が多い。(府と同様の傾向)

〈1週間の総運動時間比較〉

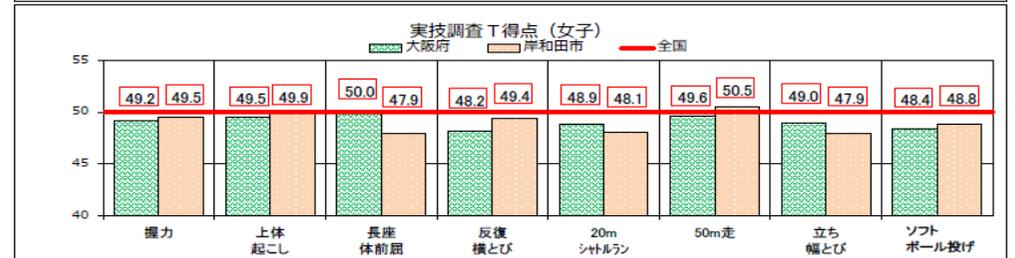
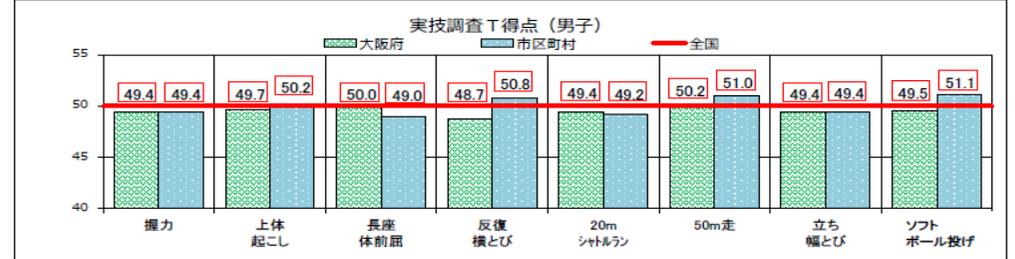


〈1週間の総運動時間の経年変化(岸和田市)〉



・ 令和6年度の結果より
 【男女】1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、全国及び府よりも多い。
 【男】1週間の総運動時間が420分以上の割合の児童は全国より多く、府より少ない。
 【女】1週間の総運動時間が420分以上の割合の児童は、全国及び府よりも少ない。
 ・ 経年変化
 【男】1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は減少し、420分以上の児童は増加した。
 【女】1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は増加し、420分以上の児童は減少した。

〈各種目のT得点〉 全国平均値を50として、大阪府と岸和田市の相対的な位置を示したもの



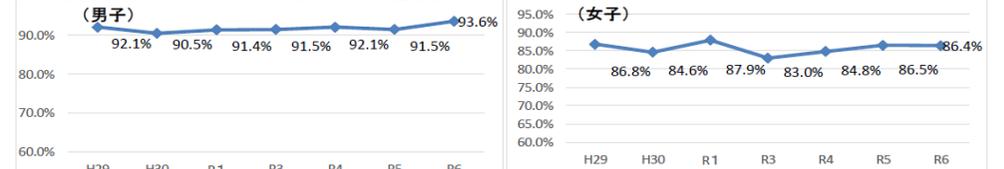
・ 全国を上回った種目・・・男子「上体起こし」、「反復横とび」、「50m走」、「ソフトボール投げ」、女子「50m走」
 ・ 府を上回った種目・・・男女「上体起こし」、「反復横とび」、「50m走」、「ソフトボール投げ」、女子「握力」
 ・ 府を下回った種目・・・男女「長座体前屈」「20mシャトルラン」、女子「立ち幅とび」

〈1週間の総運動時間に対する体力合計点の平均〉

性別	全国	岸和田
全体	52.5点	52.6点
0~60分未満	43.2点	45.7点
60~420分未満	49.0点	49.1点
420分以上	56.9点	56.0点

● 男子は1週間の総運動時間が60分未満の児童の体力合計点が全国より高い。
 ● 女子はどの値も全国を下回り、1週間の総運動時間が多いほど全国との差が開いている。

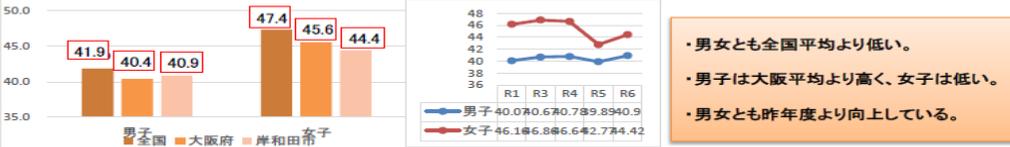
〈「体育の授業は楽しい+やや楽しい」の経年変化〉



● 経年でみると、「体育の授業は楽しい」「やや楽しい」と感じる児童の割合は、【男子】は90%以上の高い割合を維持し、【女子】は微減しているが、85%以上の高い割合を維持している。

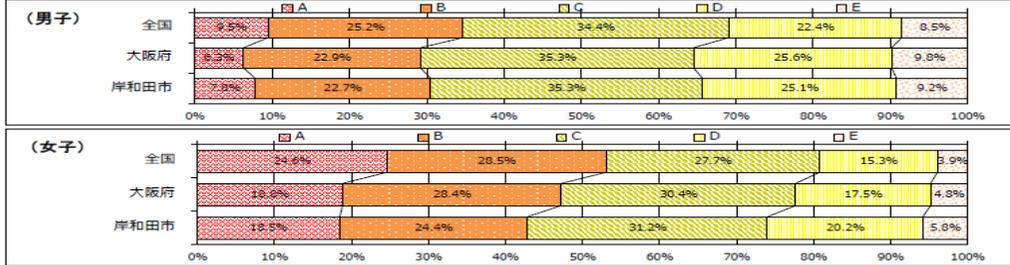
【中学校】全国及び大阪府との比較

<体力合計点の平均値及び岸和田市経年変化> 各種目10点満点とし、8種目を合計した得点を調査実施した児童数で除した数値



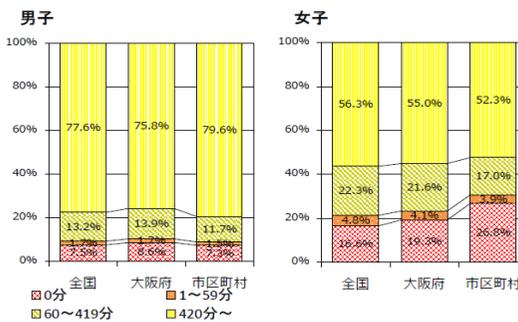
・男女とも全国平均より低い。
 ・男子は大阪平均より高く、女子は低い。
 ・男女とも昨年度より向上している。

<総合評価> 体力合計点を5段階で評価。A:57点以上、B:47~56点、C:37~46点、D:27~36点、E:26点以下

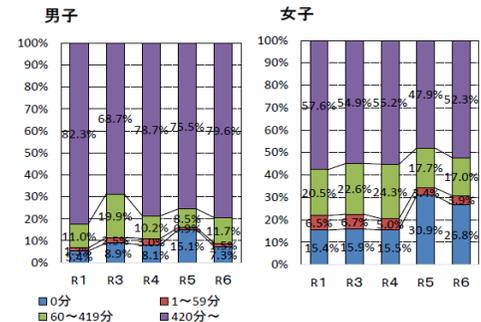


○男女とも、全国と比較して、上位層(A, B)は少なく、下位層(D, E)は多い。(府と同様の傾向)

<1週間の総運動時間比較>

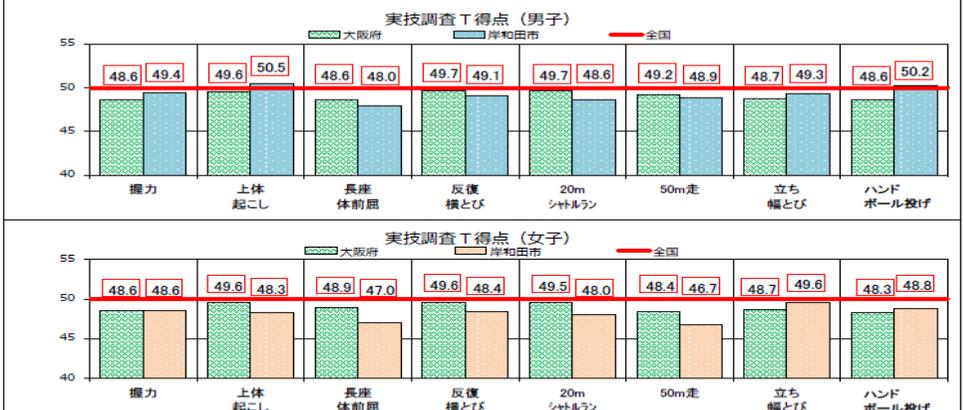


<1週間の総運動時間の経年変化(岸和田市)>



・令和6年度の結果より
 【男子】1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合は、全国及び府よりも少なく、420分以上は、全国及び府よりも多い。
 【女子】1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合は、全国及び府よりも多く、420分以上は、全国及び府よりも少ない。
 ・経年変化
 【男女】1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合は減少した。
 【男女】1週間の総運動時間が420分以上の生徒の割合は増加した。

<各種目のT得点> 全国平均値を50として、大阪府と岸和田市の相対的な位置を示したもの



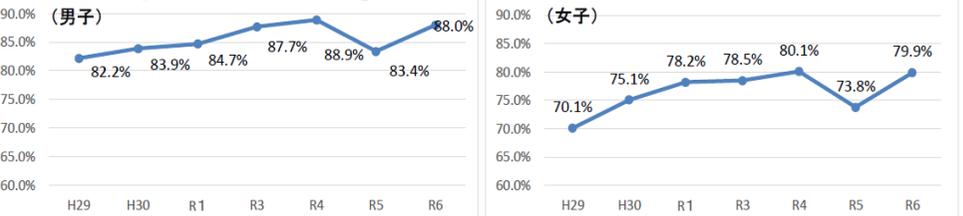
・全国を上回った種目・・・男子「上体起こし」、「ハンドボール投げ」
 ・府を上回った種目・・・男子「握力」、「上体起こし」、「立ち幅とび」、「ハンドボール投げ」、女子「立ち幅とび」、「ハンドボール投げ」
 ・府を下回った種目・・・男女「長座体前屈」、「反復横とび」、「20mシャトルラン」、「50m走」
 女子「上体起こし」

<1週間の総運動時間に対する体力合計点の平均>

	男子	全国	岸和田	女子	全国	岸和田
全体		41.7点	40.9点		47.2点	44.4点
0~60分未満		32.2点	32.1点		39.0点	39.7点
60~420分未満		36.3点	38.5点		43.2点	41.6点
420分以上		44.0点	42.4点		52.6点	50.2点

●男子は1週間の総運動時間が60分未満の生徒の体力が全国より少し低い。
 ●女子は1週間の総運動時間が60分未満の生徒の体力が全国より高い。

<「保健体育の授業は楽しい+やや楽しい」の経年変化>



●令和6年度は令和5年度より【男女】とも「体育の授業は楽しい」「やや楽しい」と感じる生徒の割合は上がった。

<R6 年度課題> … [小学校]下半身の柔らかさ、粘り強さ、体育以外の総運動時間
 [中学校]下半身の柔らかさ、粘り強さ、すばやさ、体育以外の総運動時間

【考察】
 体育以外での総運動時間は全国値と比べると低い、体育以外での総運動時間が60分未満の児童生徒の体力が、全国値と大きく変わらない、もしくは上回る結果がでた。体育授業で楽しみながら体力が向上する機会が確保され、授業改善の効果があったと考えられる。

【今後の方針】
 ・専門家による授業改善指導、実践の共有、有効な資料の活用を進めていく。その中で、種目ごとに見られる課題に対しての指導について焦点を当て授業改善を進める。
 ・スキップロープチャレンジに取り組む学校が増えてきている中で、冬の体力づくり期以外でも取り組まれるように積極的にアナウンスを行う。
 ・小学校中学年から体力向上についてPDCAサイクルを回していくために、引き続き府による体力向上事業の活用、本調査結果の分析、現場への情報提供を行う。